

第 27 回 神奈川県高等学校

放送アンデパンダン大会

<平成4年度かながわ高校芸術祭 放送部門>

第 7 回 神奈川県高等学校

映像・生録コンテスト

日 時：1992年11月15日(日)9:00~17:00

会 場：神奈川県立海老名高等学校

目 次

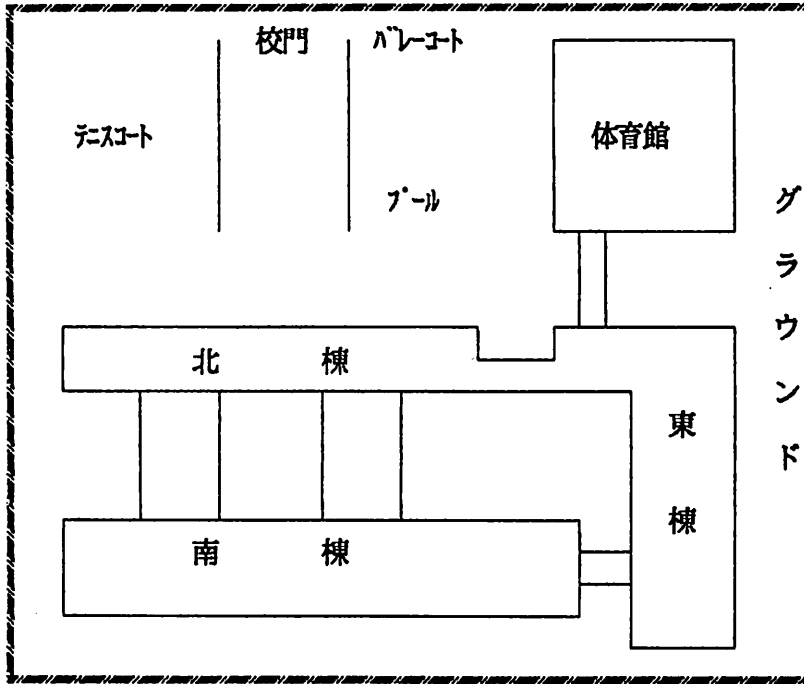
* 日程	1
* 会場案内図	2
* 役員校・委員校業務分担	4
* 機材分担一覧	5
* 大会実施要領	6
* 放送アンデパンダン大会役員一覧	13
* 映像・生録コンテスト役員、審査員一覧	14
* 放送アンデパンダン大会審査員一覧	15
* 審査の観点	17
* エントリー一覧	19
* 神奈川高校芸術祭の紹介	24
* 出場校別参加本数一覧	25
* 諸注意	27

日 程

- ◆受付◆ (9:00～ 9:40) : 各会場
- ◆審査◆ (10:00～16:00) : 各会場
各会場ごとに準備ができ次第、審査開始
- ◆映像・生録コンテスト教育長賞杯返還◆
(15:50～16:00) : 体育館
前年度映像部門最優秀校 向上高校
前年度生録部門最優秀校 県立相模大野高校
- ◆閉会式◆ (16:00～17:00) : 体育館
- 1、開式の言葉
アンデパンダン大会実行副委員長
県立相模大野高校 前島 智子 さん
 - 2、放送アンデパンダン大会実行委員長あいさつ
県立海老名高等学校 木嶋 幸子 さん
 - 3、神奈川県高等学校文化連盟会長あいさつ
県立厚木高等学校長 楠元 守 先生
 - 4、神奈川県高等学校視聴覚教育研究会会長あいさつ
県立大岡高等学校長 西森 二郎 先生
 - 5、映像・生録コンテスト講評
映像部門 向上高等学校 長岡 豊 先生
生録部門 FM横浜 編成報道部 石原 文男 殿
 - 6、審査結果発表
放送アンデパンダン大会審査委員長
県立海老名高等学校 木嶋 幸子 さん
映像・生録コンテスト映像部門審査委員長
向上高等学校 長岡 豊 先生
映像・生録コンテスト生録部門審査委員長
県立大師高等学校 加藤 孝夫 先生
 - 7、閉式の言葉
アンデパンダン大会実行副委員長
県立小田原城内高校 小島 孝子 さん

◆作品返却◆

会場案内図



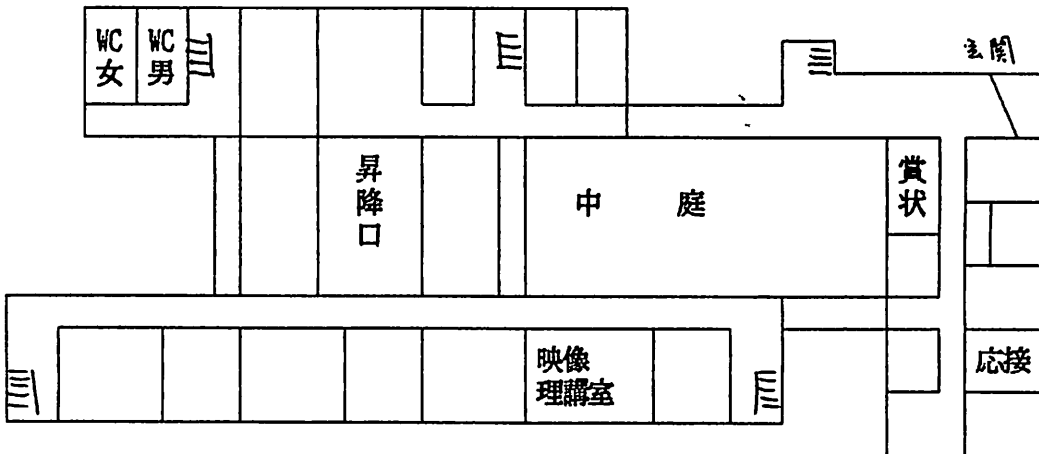
運営

本部：北棟2階 会議室
 委員校控室：南棟2階 3-11
 役員校控室：南棟2階 3-12
 集計室：南棟2階 演習室
 来賓控室：東棟1階応接室
 賞状作成：東棟1階郷土資料室
 付添顧問控室：北棟2階図書室

審査

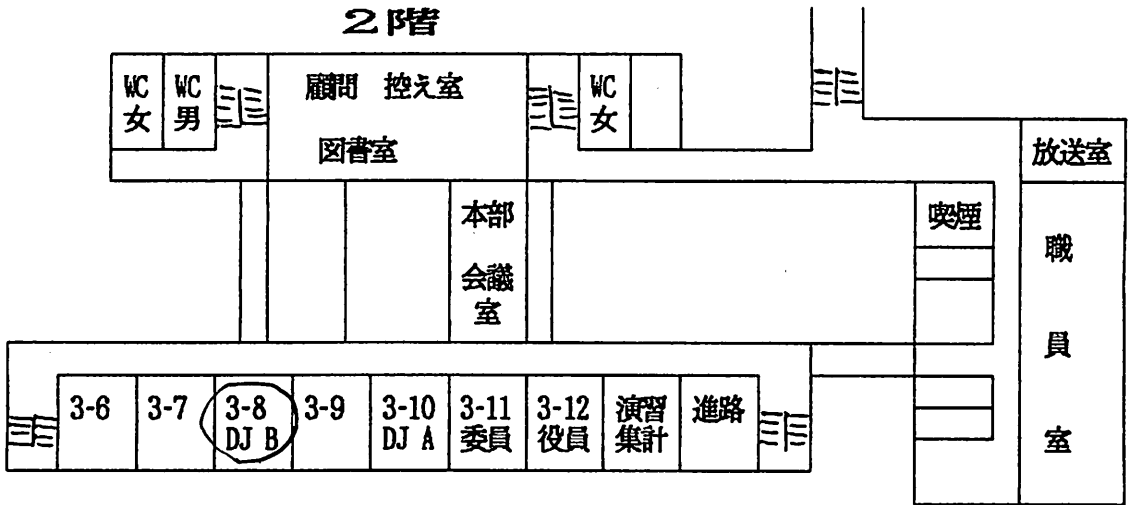
アナA：北棟3階視聴覚室
 アナB：南棟3階 3-1
 朗読：南棟3階 3-3,5
 DJ：南棟2階 3-6,8,10
 報道：南棟3階 2-2,4
 文芸：南棟4階 1-1
 放送劇：南棟4階 2-6,8,10
 映像：南棟1階理科講義室
 生録：南棟4階 2-12

1階



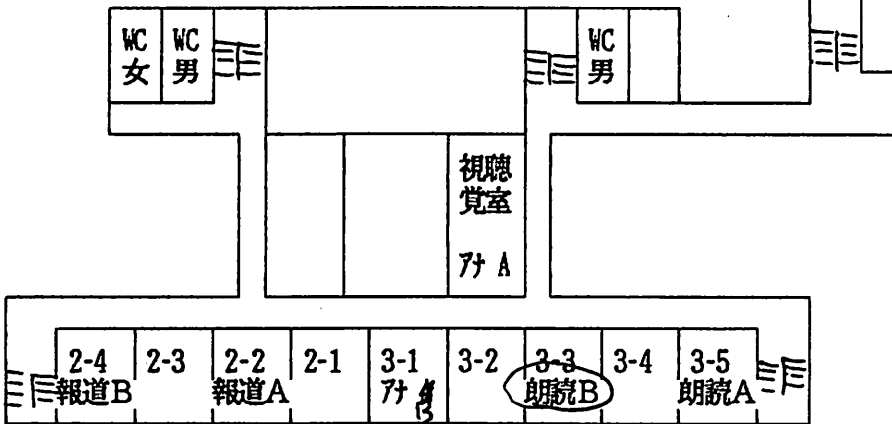
体育館

2階

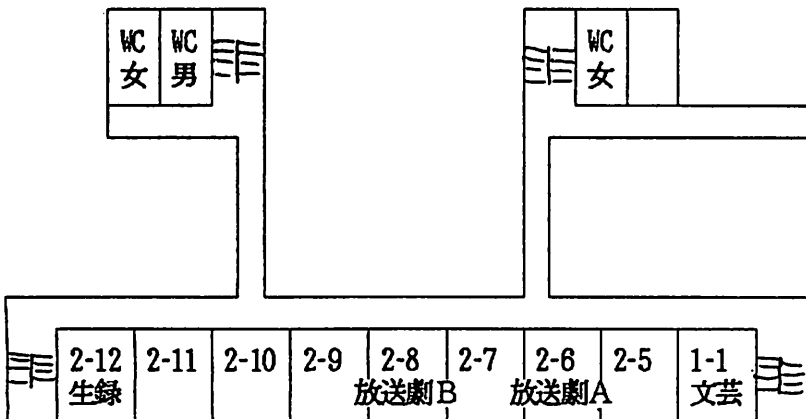


体育館

3階



4階



役員校・委員校 役割分担

	人数	担当学校名	会場
本 部	6	県立海老名、県立平塚江南	北棟2階会議室
会場設営	10	県立海老名	
集計と電算	15	県立城内、県立相模大野、市立戸塚	南棟2階演習室
審査補助	委員校控え室（朝の打ち合せも）		南棟2階 3-11
アナウンスA	4	市立南	北棟3階視聴覚室
アナウンスB	4	県立大船工技	南棟3階 3-1
朗 読 A	4	県立川和	南棟3階 3-5
朗 読 B	4	鶴見女子	南棟3階 3-3
DJ部門A	4	県立港南台	南棟2階 3-10
DJ部門B	4	県立清水ヶ丘	南棟2階 3-8
報 道 A	4	県立新磯	南棟3階 2-2
報 道 B	4	県立港北	南棟3階 2-4
文 芸	4	県立柿生	南棟4階 1-1
放送劇 A	4	県立横須賀	南棟4階 2-6
放送劇 B	4	県立茅ヶ崎	南棟4階 2-8
映 像	4	県立相武台	南棟1階 理講室
生 録	4	相模女子	南棟4階 2-12

機材分担一覧表

◎は本部機材

	マイク	アンプ	スピーカー	マイクスタンド
アナウンスA	◎WM-363	◎1702	◎101MM	◎ST-73
アナウンスB	◎WM-363	◎1702	◎101MM	◎ST-73
朗読 A	◎WM-363	◎1702	◎101MM	◎ST-73
朗読 B	◎WM-363	◎1702	◎101MM	◎ST-73
	カセットデッキ	アンプ	スピーカー	テーブルタップ
D J A	◎SONY222	◎1705	◎101MM	◎
D J B	◎SONY222	◎1705	◎101MM	◎
報道 A	◎SONY222	◎AT-SA50	◎AT-SP50	◎
報道 B	◎SONY222	◎AT-SA50	◎AT-SP50	◎
文芸	◎SONY222	◎1701	◎101MM	◎
放送劇 A	◎SONY222	◎1705	◎101MM	◎
放送劇 B	◎SONY222	◎1705	◎101MM	◎
生録	◎A&D	◎1706	◎AT-SP60	◎
予備	会場校	会場校	会場校	◎
	β	VHS	モニター	テーブルタップ
映像	◎	◎	会場校	◎
予備	会場校	◎	会場校	◎

2	第27回神奈川県高等学校放送アンデパンダン大会 第7回神奈川県高等学校映像・生録コンテスト <平成4年度 かながわ高校芸術祭放送部門> 実 施 要 領
---	---

1. **目的**：生徒相互の主体性を尊び、創造性と協調性を向上させ、正しいマスコミュニケーションの理解をはかる。また、高校生の豊かな創造性を育み、芸術的感性の向上をめざす。あわせて校内放送活動の活性化をはかる。

2. 主権・主管

【アンデパンダン大会】

主権：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会

主管：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会

【映像・生録コンテスト】

主権：神奈川県高等学校文化連盟

神奈川県高等学校視聴覚教育研究会

神奈川県教育委員会

主管：神奈川県高等学校文化連盟 放送・情報専門部会

(神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会)

後援：TVK、FM横浜、朝日新聞社横浜支局、神奈川新聞社

3. 日時

1992年11月15日(日) 9:00～17:00

・委員校、役員校、審査員集合 8:30

・受付 9:00～ 9:20

・作品提出 9:20～ 9:40

・審査 10:00～16:00

・閉会式 16:00～17:00

4. **会場**：県立海老名高等学校

5. 参加資格

1992年10月現在、神奈川県高等学校視聴覚教育研究会加盟校に在学し、校内放送に携わっている放送部・委員会の生徒であること。ただし、アンデパンダン大会においては1、2年生とし、審査員説明会と大会当日、審査員を出さない学校は参加資格がないものとする。

6. 部門・参加本数・参加費用

	アナ	朗読	報道	DJ	文芸	放送劇	映像	生録
参加本数	2人	2人	2本	1本	どちらか1本		2本	3本
参加費用	1作品／1本毎 600円						無	料

7. 表彰

アナウンス、朗読：各会場1～6位
 番組制作：各会場1～4位
 映像：上位4作品
 最優秀作品に教育長賞、優秀作品3本に奨励賞
 生録：上位6作品
 最優秀作品に教育長賞、優秀作品5本に奨励賞

(注1)

映像部門上位3校の作品は、第17回(1993)全国高等学校総合文化祭(開催地埼玉県)放送文化部門のビデオ部門に推薦される。ただし、全国ビデオ部門へのエントリー可能数は、「ビデオ作品」1本、「ビデオレター」1本、「オーディオピクチャー」1本であるため、次のように定める。

最優秀校の作品はそのまま「ビデオ作品」部門へ出品される。以下2校は新たに「ビデオレター」または「オーディオピクチャー」(どちらにするかはその2校で相談して決める)を制作し、出品する資格を与えられる。

(注2)

映像・生録部門最優秀作品(教育長賞)の表彰は、平成4年度かながわ高校芸術祭閉会式(93年1月)に芸術祭他部門とともに行なわれる。

(注3)

棄権作品数の多かった会場については、表彰本数を減らすことがある。

8. 審査

【アンデパンダン大会】

- ①参加校各1名の生徒が審査にあたる。
- ②審査員は次の注意を守ること。
 - ☆部長(委員長)もしくはそれに準じる者であること。
 - ☆大会当日中の交代は不可。
 - ☆10月31日(土)の審査員説明会に出席すること。
- ③委員校・役員校は審査員を出さなくてよい。

【映像・生録コンテスト】

- ①各部門、教員審査員とFM横浜からの特別審査員による。
- ②別紙、「審査の観点」に基づき、審査を行なう。
- ③規定違反の場合、原則として減点・失格の対象となる。
- ④詳細は、審査員およびコンテスト運営委員長の協議による。

9. 審査基準、方法

- ①高校生として望ましいアナウンスメント、朗読、番組であること。
- ②別紙、「審査の観点」に基づき、審査を行なう。
- ③規定違反の場合、原則として減点・失格の対象となる。
- ④詳細については、審査員および大会実行委員長の協議による。最終判断は、大会実行委員長の責任において行なう。

10. 参加申込および審査員説明会

- ①期日：1992年10月31日（土）
- ②会場：県立海老名高等学校
- ③時間：参加申込 14：30～15：30（早めに）
審査員説明会 14：30～16：00（時間厳守）
- ④来場者：参加申込に1名
審査員説明会に1名（審査員本人） 計2名
- ⑤提出物：申込用紙・領収書（要 校長印・顧問印）
出場カード
審査部門希望カード（アンデパンダン大会出場校）
参加費（アンデパンダン大会出場校）

※原稿用紙の販売も行なう。

- 注意1：郵送などによる参加申込は一切受け付けない。
- 注意2：審査員説明会への出席者は審査員本人であること。正当な理由により出席できない場合は、必ず代理の者が出席すること。
- 注意3：提出物については、くれぐれも間違いや忘れ物のないよう、慎重に準備し、顧問の確認を受けること。

11. 大会当日の受付

- ①受付 9：00～9：20
受付でプログラムを受け取り、審査会場・番号を確認し封筒・スクリプト・テープに記入する。
- ②封筒提出 9：20～9：40（時間厳守）
記入を終えた作品封筒を、各審査会場に各自持参し、審査補助係に提出する。

1 2. アナウンス部門諸規定

- ①内容：自校のニュースや解説など、高校生活を語る若者の声を内容とし、原稿は自作したものに限る。原稿と実際のアナウンスに相違があってはならない。
- ②時間：1分10秒～1分30秒。
番号、学校名、氏名を含む。
- ③計時：最初の声から最後の声までとする。但し、キューサイン直後から読み始めるようにすること。

1 3. 朗読部門諸規定

- ①内容：次の5作品から1編を選び、自己の表現したい部分をきめて朗読する。作品の脚色は認めない。また、原稿と実際の朗読に相違があってはならない。

1 夏目 漱石	「こころ」	(新潮文庫)
2 北 杜夫	「幽霊」	(新潮文庫)
3 宮尾 登美子	「もう一つの出会い」	(新潮文庫)
4 チャップリン	「チャップリン自伝」	(新潮文庫)
5 古典作品	「伊勢物語」	(指定なし)

* () 内の出版社に限る。
- ②時間：1分30秒～2分00秒。
番号、学校名、氏名、作者名、作品名を含む。
- ③計時：最初の声から最後の声までとする。但し、キューサイン直後から読み始めるようにすること。

1 4. 番組制作部門諸規定

- ①種類と時間：

報道・DJ・文芸	： 9分20秒～10分00秒
放送劇	： 15分00秒～20分00秒

(注意) 使用するデッキの回転誤差がありうるため、それぞれ9分40秒、15分30秒～19分30秒程度で制作することが望ましい。

- ②内容：
生徒自らの創作に限る。
- ③制作者：
3年生の協力も事情によっては認めるが、その場合はスクリプトの末尾に学年・氏名・係(役)を明記すること。
- ④使用テープ：
 - 7) 往復録音時間30～60分のカセットテープを使用。
 - イ) A面のみに録音。B面は消去しておく。
 - ウ) BIAS: NORMAL、EQ: 120 μ Sで録音再生できるもの。

- ⑤録音方法1：
 7)左右両チャンネルに同じ音を録音する。
 1)審査は、モノラル、ノーマルポジション、ノンノイズリダクションで再生して行なう。
- ⑥録音方法2：
 録音はリーダーテープの直後から始め、最後に「制作は〇〇高等学校放送部（委員会）でした」というクレジットコールを入れる。
- ⑦計時：
 7)審査補助係が、テープがリーダーテープ直後になっていることを確認し、デッキに入れて、ポーズ状態にする。
 1)計時はポーズ解除の瞬間からクレジットコールの最後までとする。
 2)クレジットコール終了とともに再生を終える。その後どんな音が入っていても審査の対象とはならない。
- ⑧ラベル：
 7)テープケースに別紙14の「作品票」を貼ること。
 1)テープ本体のA面に、部門名・会場名（当日わかる）・学校名（略称可）を明記した紙を貼ること。
- ⑨オープンテープの使用も認めるが、オープンテープレコーダーを持参し各校の責任で再生すること。詳細は希望校に対し個別に説明する。

15. 映像部門諸規定

- ①内容 映像番組としての魅力・表現力に富み、芸術性のあるもの。
 内容・方法は自由。
- ②時間 7)10分以内。
 1)前後に10秒のテストパターンを入れる。形式はNHK杯全国高校放送コンテスト様式規定7に準じる。動きのあるテストパターン、フェーダーを使用したテストパターンは禁止。
- ③計時 番組本体についてのみ行なう。但し、動きのあるテストパターンは作品の一部とみなし、計時の対象とする。
- ④規格 7)VTRはVHS（標準モード）、 β （I、II）、8mm（標準モード）とする。
 1)音声はモノラル、ノーマルのみとする。（HiFi不可）
 2)8mmを使用する学校は、機器を持参し、その学校の責任において再生すること。
- ⑤ラベル アンデパンダン大会番組制作部門と同様。
- ⑥その他 上記以外の規定については、NHK杯全国高校放送コンテスト神奈川大会の実施要領に準じる。

16. 生録部門諸規定

- ①内容 音響番組としての魅力・表現力に富み、着想に独自性のあるもの。内容・方法は自由だが、ナレーションは原則として入れないこと。
 生録作品にかぎる。おもしろい音、想像性、おもしろい
 既製物はだめ。気付いたらとる。映像性、おもしろい

- ②時間 7) 3分以内。
 1) リーダーテープの直後から始め、最後に「制作は〇〇高等学校でした」というクレジットコールを入れる。
- ③計時 アンデパンダン大会番組制作部門と同様に行なう。
- ④規格 7) ステレオ録音を標準とする。(モノラルで制作する場合は左右両チャンネルに同じ音を録音する)
 1) 審査は、ステレオ、ノーマルバイアス、ノンノイズリダクションで再生して行なう。
 2) 使用テープの規定はアンデパンダン大会を参照。
- ⑤ラベル アンデパンダン大会番組制作部門と同様。
- ⑥その他 上記以外の規定については、NHK杯全国高校放送コンテスト神奈川県大会の実施要領に準じる。

17. スクリプトに関する規定(全部門)

- ①神奈川県高等学校視聴覚教育研究会で作成した原稿用紙を使用する。
 ②作品1本(1人)について8部提出する。
 ③NHK杯全国高校放送コンテストの様式規定に従って作成する。
 ☆アナウンス・朗読→様式規定3 ☆番組、映像・生録→様式規定5
 ④スクリプトとテープを角2の封筒に入れ、封筒の表にはスクリプトの表紙と同様の記載をする。
 ⑤映像・生録番組では、制作にあたって特に工夫した点があれば、その内容を書くこと(書式自由)。
 ⑥スクリプト表紙(及び封筒表書)の見本
 <アナウンス、朗読> <番組、映像・生録>

作品名	作者名	氏名	学校名	朗読部門
こころ	夏目漱石	相模太郎	県立相模大野高等学校	[A]会場 [13]番

制作代表者	再生時間	タイトル	学校名	報道部門
海老名次郎	9分40秒	ああ青春	県立海老名高等学校	[B]会場 [22]番

- 注意1 アナウンス部門は、作者名・作品名は不要。
 注意2 []のなかは、大会当日、プログラムを見て記入する。

18. その他

上記以外の規定については、NHK杯全国高校放送コンテスト神奈川県大会の実施要領に準じる。

19. 諸注意

- ① 上履きを持参すること。昼食もなるべく持参すること。
- ② 閉会式終了後、スクリプト・テープを返却するので、必ず受け取る
こと。
- ③ 大会当日の運営に関することは、すべて顧問を通して本部に申し出
ること。

第27回 神奈川県高等学校放送アンデパンダン大会
役 員 一 覧

1. 実行委員

実行委員長	木嶋 幸子	(県立海老名高等学校)
実行副委員長	前島 智子	(県立相模大野高等学校)
実行副委員長	小島 孝子	(県立小田原城内高等学校)
実行副委員長	松本 朋枝	(横浜市立戸塚高等学校)
実行副委員長	太田 励	(県立金井高等学校)
実行副委員長	小清水 大	(県立平塚江南高等学校)

2. 補助教員

杉浦 敏昭	(県立平塚江南高等学校)
金子 和明	(県立金井高等学校)
片山 浩行	(横浜市立戸塚高等学校)
平田 ますみ	(県立菅高等学校)
川口 修	(県立百合丘高等学校)
石川 一浩	(県立小田原城内高等学校)
石川 岩夫	(県立相模大野高等学校)
本田 博都	(県立海老名高等学校)

第7回 神奈川県高等学校 映像・生録コンテスト
役員・審査員一覧

1. 主催

神奈川県高等学校視聴覚研究会	会長	西森 二郎	(県立大岡高等学校)
神奈川県高等学校文化連盟	会長	楠元 守	(県立厚木高等学校)
高文連 放送情報専門部会	会長	西森 二郎	(県立大岡高等学校)
神奈川県高等学校視聴覚研究会	副会長	清水 保善	(県立汲沢高等学校)
神奈川県高等学校視聴覚研究会	副会長	高野 陽一	(東横学園大倉山高等学校)
神奈川県高等学校視聴覚研究会	副会長	杉崎 稔	(市立横須賀高等学校)

2. 運営

杉浦 敏昭	(県立平塚江南高等学校)
金子 和明	(県立金井高等学校)
片山 浩行	(横浜市立戸塚高等学校)
平田 ますみ	(県立菅高等学校)
川口 修	(県立百合丘高等学校)
石川 一浩	(県立小田原城内高等学校)
石川 岩夫	(県立相模大野高等学校)
本田 博都	(県立海老名高等学校)

3. 審査

<映像部門>

審査委員長：長岡 豊	(向上高等学校)
審査員：川手 徹	(県立新羽高等学校)
審査員：横川 清和	(県立川崎工業高等学校)
審査員：山崎 里見	(市立鶴見工業高等学校)
審査員：布施 光一	(県立六ツ川高等学校)

<生録部門>

審査委員長：加藤 孝夫	(県立大師高等学校)
審査員：石原 文男	(FM横浜)
審査員：関 弘之	(県立岡津高等学校)
審査員：田村 志磨子	(県立有馬高等学校)
審査員：石川 順一	(県立藤沢北高等学校)

第27回神奈川県高等学校

放送アンデパンダン大会 審査員一覧表

◎ 会場チーフ

◆審査委員長◆ 木嶋 幸子 (県立海老名)

◆アナウンス A会場◆

◎小山 明子 (日本大学藤沢)
北村 紘子 (成美学園)
三宅 由記 (県立新羽)
立花真一郎 (県立大和東)
永田 輝昭 (県立座間)

◆アナウンス B会場◆

◎内田 将一 (県立小田原城北工業)
赤石留美子 (県立岩戸)
山口 智照 (県立川崎工業)
佐藤雄一郎 (県立湘南)
桜井 正子 (県立川崎)

◆朗読 A会場◆

◎渡辺 朗 (県立川崎北)
倉持 乙美 (川崎市立高津)
岩崎真紀子 (県立磯子)
近藤 香代 (カリタス)
安江 亨 (法政大学第二)

◆朗読 B会場◆

◎椛沢 洋美 (県立弥栄東)
安西 大介 (県立津久井)
平原由紀子 (県立市ヶ尾)
藤久保まゆ (法政大学女子)
杉原 愛 (翠陵)

◆報道 A会場◆

◎得永 美樹 (県立橋本)
辻 健太郎 (日本大学高校)
栗栖 仁志 (県立新米)
押田 佳久 (県立有馬)
岩本 純一 (向上)

◆報道 B会場◆

◎岩井 章 (川崎市立商業)
飯島 宏之 (県立藤沢北)
阿部 織恵 (相模女子大高等部)
柴田 知紀 (東海大学相模)
宮崎 光男 (川崎市立川崎)

◆D J A会場◆

- ◎小川 竜也 (県立岡津)
- 山中祐理子 (県立生田)
- 西 憲一郎 (県立藤沢西)
- 山田 和広 (県立商工)
- 一柳 優子 (県立麻溝台)

◆文 芸 ◆

- ◎高橋 宏明 (県立希望ヶ丘)
- 小山 由香 (県立寒川)
- 柚木 晃 (県立鎌倉)
- 杉山 真琴 (県立鶴嶺)
- 中塚 崇之 (横浜市立金沢)

◆放送劇 B会場◆

- ◎佐藤 竹彦 (県立六ツ川)
- 西本 太一 (県立元石川)
- 中村 幸一 (県立白山)
- 伊藤 亮 (県立柏陽)
- 古田 朋洋 (県立大和)

◆D J B会場◆

- ◎橋本 佳子 (県立永谷)
- 齊藤 真行 (県立茅ヶ崎北陵)
- 太田 孝志 (県立茅ヶ崎西浜)
- 伊藤 茂樹 (県立富岡)
- 宮原 幸子 (横須賀学院)

◆放送劇 A会場◆

- ◎佐古 祐一 (県立瀬谷西)
- 杉山 洋介 (県立横浜立野)
- 細谷 弘通 (県立荏田)
- 松平 洋子 (県立厚木)
- 田辺 誠 (県立向の岡工業)

第27回 神奈川県高等学校放送アンデパンダン大会
 第7回 神奈川県高等学校映像・生録コンテスト

審 査 の 観 点

アナウンス

- ①取材・まとめ方
話の内容、構成やまとめ方はどうか。
- ②内容の把握
内容をよく把握したアナウンスをしているか。
- ③話しかけ方
内容伝達の力、間の取り方など、アナウンスの仕方全般。
- ④基礎技術
発声・音量・イントネーション・アクセントなどはどうか。
- ⑤全体的な印象
聞きおわっての全体的な印象。
①～④以外の点で感じられた点があれば
ここの採点に加味する。

朗 読

- ①題材の選択
朗読部分の抽出の仕方はどうか。
- ②内容の把握
作品全体及び抽出部分の内容をよく把握した上で朗読しているか。
- ③表現のしかた
内容にあった表現方法、間の取り方など朗読のしかた全般。
- ④基礎技術
発声・音量・イントネーション・アクセントなどはどうか。
- ⑤全体的な印象
聞きおわっての全体的な印象。
①～④以外の点で感じられた点があれば
ここの採点に加味する。

報 道

- ①題材の選択
どのようなテーマがどのような視点で選択、設定されているか。
- ②内容・構成
テーマを生かすためにどのような取材や構成が行なわれているか。制作の方法は適切か。
- ③制作技術・効果
録音の技術はどうか。音楽や効果音が適切に使われているか。
- ④アナウンスの技術
(アナウンスの②～④を参照)

文芸・放送劇

- ①発想
「報道」に準じる。
- ②内容・構成
「報道」に準じる。
- ③制作技術・効果
「報道」に同じ。
- ④ナレーション等の技術
「報道」に準じる。

D J

- ①話題
「報道」に準じる。
- ②内容・構成
「報道」に準じる。
- ③制作技術・効果
「報道」に同じ。
- ④ナレーションの技術
「報道」に準じる。

報 道	文芸・放送劇	D J
<p>⑤全体的な印象 聞きおわたりの全体的な印象。①～④以外の点で感じられた点があれば、ここの採点に加味する。</p>	<p>⑤全体的な印象 「報道」に同じ。</p>	<p>⑤全体的な印象 「報道」に同じ。</p>

※放送台本も審査対象とする。

映 像 ・ 生 録
<p>① 題材の選択 どのような題材が選択されているか。</p> <p>② 内容・工夫 題材を番組として生かすために、全体の内容をどのように工夫しているか。</p> <p>③ 制作技術・効果 録画・録音の技術はどうか。</p> <p> <映像部門> カメラアングル、編集の工夫、音響効果など、映像番組としての技術全般。</p> <p> <生録部門> 臨場感、音の定位、音の分離など、音響番組としての技術全般。</p> <p>④ 印象 映像番組、音響番組としての魅力、表現力はどうか。</p> <p>⑤ 総合評価</p> <p>※ 放送台本も審査対象とする。 ※ 機材の性能による画像ノイズなどは減点しない。</p>

第27回神奈川県高等学校
放送アンデパンダン大会
エントリー一覧
◆アナウンス部門 A会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年
1	私立相模女子大	児平真由美	1
2	県立小田原城内	山田明子	1
3	県立六ツ川	近藤竜也	1
4	県立新羽	緑川加奈子	1
5	県立座間	龍野ミサ	2
6	私立向上	藤田裕子	1
7	私立東海大相模	呉地英明	2
8	県立麻溝台	岩城麗子	1
9	県立柏陽	青陰聡子	1
10	県立元石川	鈴木正子	2
11	私立翠陵	相園栄江	2
12	県立大和東	光村和歌子	1
13	川崎市立商業	佐原里花	1
14	県立平塚江南	横尾愛	1
15	私立法政大女子	野崎真樹子	2
16	横浜市立南	川畑千鶴	1
17	県立岡津	木田信	2

No.	学校名	制作代表者	学年
18	県立寒川	奈良真由美	2
19	県立有馬	秋元佳子	2
20	県立厚木	伊藤夏子	1
21	県立岩戸	坂本千春	2
22	私立法政大第二	西栄二郎	1
23	県立磯子	高橋邦子	2
24	県立川和	山口ひろみ	1
25	県立海老名	三橋亜矢	2
26	私立カリタス女子	高原佳子	1
27	私立日大藤沢	飯味左知子	1
28	県立茅ヶ崎北陵	上條由紀子	2
29	川崎市立高津	佐々木真紀	2
30	県立生田	岡部哲彦	2
31	県立瀬谷西	早生恵美	1
32	県立湘南	小林純子	1
33	川崎市立川崎	大塚綾乃	1

◆アナウンス部門 B会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年
1	県立寒川	長谷川哲也	1
2	県立麻溝台	磯崎陽子	2
3	県立湘南	田所知子	1
4	県立有馬	三廻部潤	2
5	私立法政第二	藤島大介	2
6	県立金井	丸山文	1
7	私立向上	八島しのぶ	2
8	私立東海大相模	鈴木美菜子	1
9	川崎市立川崎	吉川智子	1
10	県立横浜日野	石渡麻里	1
11	県立神奈川工業	鈴木学	2
12	県立小田原城内	小島孝子	2
13	県立海老名	鎌水由華	1
14	県立生田	高橋宏美	1
15	県立岩戸	田沢映実子	1
16	県立藤沢北	鎌田和恵	1
17	県立鎌倉	佐藤瑞枝	1

No.	学校名	制作代表者	学年
18	県立岡津	船木桂子	2
19	横浜市立南	黒川有子	1
20	私立法政大学女子	村松紀子	1
21	県立柏陽	小林聡子	2
22	県立元石川	小川恵里奈	2
23	私立翠陵	松丸峰子	1
24	県立大和東	嶋田峰子	1
25	県立多摩	佐伯まり子	1
26	横浜市立戸塚	田嶋千与	2
27	県立相武台	小坂井智子	2
28	県立平塚江南	青木奈奈	1
29	県立厚木	井手陽子	1
30	県立座間	中出ゆかり	2
31	私立カリタス女子	内田真貴	1
32	川崎市立商業	石塚あさみ	2
33	県立清水が丘	湊健一	1

▲朗読指定作品▲

1. 夏目漱石「こころ」 2. 北杜夫「幽霊」 3. 宮尾登美子「もう一つの出会い」
4. チャップリン「チャップリン自伝」 5. 古典作品「伊勢物語」

◆朗読部門 A会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年	No.	学校名	制作代表者	学年
1	県立川和	松本文秀	2	23	県立湘南	稲田三有紀	1
2	県立生田	杉山真哉子	2	24	県立鎌倉	吉谷美奈	2
3	川崎市立川崎	川畑紀子	1	25	県立平塚江南	多田美雪	1
4	県立荏田	原田由美子	1	26	県立瀬谷西	豊嶋みどり	2
5	日本大学藤沢	清水愛	1	27	県立相模大野	村瀬香	2
6	横浜市立南	久松摂子	2	28	県立新栄	高木美和	2
7	法政大学女子	井谷奈穂子	1	29	県立座間	菊池明子	1
8	県立柏陽	山田みどり	1	30	県立有馬	一之木香織	2
9	県立金井	徳永清子	1	31	東海大学相模	柴田清美	1
10	県立市ヶ尾	野海良子	2	32	県立白山	多田賢二	2
11	県立磯子	志藤由美	1	33	相模女子大学	細川智子	2
12	法政大学第二	小田創	1	34	県立岩戸	森永愛	2
13	県立六ツ川	矢野裕一	1	35	県立岡津	神谷真子	1
14	県立商工	水谷竜生	1	36	県立寒川	佐藤由香	2
15	県立麻溝台	幸田清華	1	37	県立藤沢北	佐々木章子	1
16	カリタス女子	荒井清美	1	38	県立藤沢西	中森利子	1
17	県立海老名	長島優子	2	39	県立小田原城北工	松本明日香	2
18	向上	太田麻耶	1	40	県立清水ヶ丘	松本愛	1
19	県立厚木	飯塚朋子	1	41	横浜市立戸塚	松本朋枝	2
20	県立相武台	千田清峰代	1	42	県立川崎	佐藤今日子	2
21	県立大和	山崎真麻子	2	43	県立小田原城内	毛利美里	1
22	県立茅ヶ崎北陵	市原夏樹	2	44	県立津久井	高澤美帆子	2

◆朗読部門 B会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年	No.	学校名	制作代表者	学年
1	日大藤沢	森麻喜子	1	23	県立海老名	安田春香	1
2	カリタス女子	菅原美緒	1	24	県立小田原城内	湯本真弓	2
3	県立新磯	坂元英之	2	25	県立麻溝台	芳賀千壘	1
4	県立藤沢西	栗栖つかさ	1	26	横浜市立金沢	吉田昇央	1
5	県立生田	平山裕章	2	27	県立座間	羽賀井加奈	2
6	県立大和	前田由美	2	28	県立有馬	菅原麻美	2
7	県立瀬谷西	久保智美	1	29	県立厚木	小宮山洋子	1
8	県立白山	桑原顕	1	30	川崎市立川崎	井上瑞穂	1
9	相模女子大高等部	岡田朋子	2	31	横浜市立南	石元敬子	1
10	県立弥栄東	嶋原美香	1	32	法政大学女子	田島彩子	2
11	県立岩戸	沼田幸子	2	33	成美学園女子	斉藤いづみ	2
12	県立相模大野	三上由妃	2	34	県立茅ヶ崎北陵	松田洋一	1
13	東海大学付属相模	原島慶子	2	35	県立湘南	高橋悠子	1
14	県立金井	山口真紀	1	36	県立柏陽	顔師朋子	2
15	県立藤沢北	有吉実保	1	37	県立市ヶ尾	松井智	1
16	県立大和東	松坂菊枝	1	38	県立岡津	渡邊雅美	1
17	法政大学第二	田辺博崇	1	39	県立相武台	永山幸恵	1
18	県立川崎	岩瀬智子	2	40	県立新羽	阿久津聡子	1
19	県立寒川	鈴木朋美	2	41	県立横浜立野	角田慎介	1
20	翠陵	振井久美子	2	42	県立元石川	金子佳子	2
21	県立平塚江南	小西由記	1	43	川崎市立商業	根岸リカ	1
22	県立新栄	望月志乃	2	44	県立鎌倉	牧野千春	1

イヤガの

◆報道部門 A会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年
1	県立有馬	佐々木真弓	2
2	法政大学女子	牧野亜希子	2
3	県立柏陽	鈴木達也	2
4	県立藤沢北	枇杷木有加	2
5	県立希望ヶ丘	加藤淳子	1
6	県立金井	小山洋一	2
7	法政大学第二	佐藤弘隆	2

No.	学校名	制作代表者	学年
8	県立鎌倉	山形健太郎	1
9	県立平塚江南	三田諭	1
10	県立湘南	佐藤雄一郎	2
11	県立六ツ川	佐藤竹彦	2
12	県立瀬谷西	青木政憲	1
13	県立岡津	小谷明	2

◆報道部門 B会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年
1	県立希望ヶ丘	江口秀幸	1
2	県立湘南	戸村由紀	1
3	東海大学相模	岩田敦志	2
4	日本大学高校	猪狩健太郎	2
5	県立柏陽	頭師朋子	2
6	県立磯子	宮田勝仁	1
7	県立瀬谷西	松下幸生	2

No.	学校名	制作代表者	学年
8	県立鎌倉	小林美道	1
9	県立新栄	山口ゆき子	1
10	県立川崎	桜井正子	2
11	県立平塚江南	小林和彦	2
12	県立新羽	石渡雅子	2
13	県立有馬	大西雄作	2

◆DJ部門 A会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年
1	県立六ツ川	中嶋浩二郎	1
2	県立川崎工業	山下裕美	2
3	川崎市立高津	倉持乙美	2
4	県立港南台	山口明生	2
5	県立湘南	松田旬子	1
6	県立平塚港南	深澤美紀	2
7	横浜市立南	久松撰子	2
8	県立小田原城内	小島孝子	2
9	県立天和東	立花真一郎	2

No.	学校名	制作代表者	学年
10	県立市ヶ尾	斉藤悠利	1
11	県立座間	相浦久美子	2
12	県立相模大野	原田和彦	1
13	県立鶴嶺	竹内法子	2
14	県立瀬谷西	石河憲一	2
15	県立横浜立野	渡辺綾	2
16	県立新羽	保志多恵子	2
17	県立清水方丘	吉田真彦	1

◆DJ部門 B会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年	No.	学校名	制作代表者	学年
1	県立柿生	藤田美和子	2	10	県立麻溝台	平田奈保子	1
2	私立法政大学女子	居山真希子	1	11	横浜市立戸塚	松本朋枝	2
4	③ 県立荏田	千田崇弘	1	12	県立希望ヶ丘	犬飼友紀	1
4	県立鎌倉	比留川隆弘	1	13	県立白山	高橋剛志	1
5	県立商工	久保寺茂	2	14	県立岡津	渡邊雅美	1
6	県立弥栄東	砂塚涼子	1	15	川崎市立商業	根岸リカ	1
1	④ 県立海老名	平野隆治	1	16	県立生田	大野明子	1
3	⑤ 県立元石川	金子佳子	2	17	県立新栄	牛久佳代子	1
9	私立東海大相模	関根宏親	2	18	県立藤沢北	宮崎範子	2

◆文芸部門◆

No.	学校名	制作代表者	学年	No.	学校名	制作代表者	学年
1	横浜市立金沢	濱崎葉子	2	4	県立白山	清水久実子	
2	② 県立鎌倉	打木丈介	2	5	⑤ 県立海老名	木嶋幸子	2
9	私立法政大第二	小田創	1	6	⑥ 県立藤沢西	大井美香	1

◆放送劇部門 A会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年	No.	学校名	制作代表者	学年
3	① 私立東海大相模	信夫麻希	2	8	⑧ 県立生田	大沢彩	1
2	県立大和	沖野貴美	1	9	⑨ 私立横須賀学院	宮原幸子	2
3	県立平塚港南	小清水大	2	10	県立川和	山口ひろみ	1
2	④ 県立有馬	押田佳久	2	11	県立永谷	天野純代	2
5	県立茅ヶ崎	加藤亜子	1	12	県立茅ヶ崎北陵	長山忍	1
6	県立港南台	北村陶子	1	13	県立相武台	日野原康正	2
7	県立荏田	石川亮	2	14	県立清水が丘	神保直史	1

◆放送劇部門 B会場◆

No.	学校名	制作代表者	学年	No.	学校名	制作代表者	学年
1	① 県立厚木	上原玲子	1	8	⑧ 川崎市立商業	三浦朋子	1
3	② 県立相模大野	前島智子	2	9	横浜市立南	小林健太郎	2
3	県立茅ヶ崎西浜	高玉康代	2	10	県立小田原城北工	内田将一	2
4	県立橋本	得永美樹	2	11	県立六ツ川	福嶋秀子	2
5	県立寒川	小山由香	2	12	⑫ 県立金井	太田励	2
6	県立湘南	小野田あゆみ	1	13	⑬ 県立元石川	西達也	1
7	県立柏陽	伊藤亮	1	14	⑭ 県立川崎北	渡辺朗	2

第7回神奈川県高等学校映像・生録コンテスト
エントリー一覧

◆映像部門◆

No.	学校名	制作代表者	学年	No.	学校名	制作代表者	学年
1	県立元石川	岩谷拓郎	2	16	県立川崎工業	宇佐美敦史	2
4 ②	県立座間	永田輝昭	2	17	横浜市立金沢	佐藤光	2
3	県立藤沢北	飯島宏之	2	18	県立生田	平山裕章	2
3 ④	県立相模大野	前田亮介	1	19	県立津久井	鎌田秀人	2
5	日本大学藤沢	佐々木誠	1	20	県立富岡	伊藤茂樹	2
6	横浜市立南	蓑輪俊介	1	21	横浜市立南	小林健太郎	2
7	県立相武台	平松悟	1	22	県立金井	吉田剛浩	1
8	県立津久井	山田高弘	2	23	横浜市立金沢	佐藤光	2
1 ⑨	県立座間	関野清明	2	24	県立生田	市田真沙美	1
10	日本大学藤沢	中川友徳	1	25	川崎市立川崎	奈良恵子	3
11	川崎市立川崎	梶恵一	3	26	向上	原園枝	2
12	県立向の岡工業	田辺誠	1	27	県立大和東	立花真一郎	2
13	県立白山	脇田英治	2	28	東海大学相模	柴田知紀	2
14	県立新栄	常泉薫	1	29	県立相模大野	徳山則秀	1
15	県立元石川	岩谷拓郎	2	30	向上	岩本純一	2

◆生録部門◆

No.	学校名	制作代表者	学年	No.	学校名	制作代表者	学年
5 ①	県立新栄	栗栖仁志	2	18	県立生田東	山浦壮士	2
2	市立川崎	百目鬼直之	3	19	県立川崎工業	山下裕美	2
3	県立平塚江南	小林和彦	2	20	県立金井	佐野幸司	2
4	県立湘南	鈴木健史	2	21	県立元石川	西本太一	2
4 ⑤	県立相模大野	野呂太一	2	22	横浜市立南	福澄崇	1
6	県立若戸	沼田幸子	2	23	県立相模大野	佐藤英雄	2
7	県立川崎北	渡辺朗	2	24	県立神奈川工業	松下康哲	3
5 ⑧	県立座間	亀島孝道	2	25	県立川崎工業	星浩司朗	2
9	相模女子大高等部	勝呂恵美	2	26	県立有馬	高橋伸和	1
3 ⑩	県立相模大野	前畠智子	2	27	向上	宮田将志	2
11	県立麻溝台	早坂涉	1	28	川崎市立川崎	原亜徳	3
12	県立有馬	押田佳久	2	29	相模女子大高等部	阿部織恵	2
2 ⑬	県立座間	末永孝司	2	30	県立川崎工業	村上真一	2
14	横浜市立南	井上裕司	2	31	川崎市立商業	岩井章	1
15	県立湘南	浅井和幸	2	32	県立若戸	大久保美貴子	1
16	県立麻溝台	阿部知衣	2	33	横浜市立南	蓑輪俊介	1
17	県立白山	高瀬雄啓	2	34	県立有馬	佐藤武司	2

かながわ高校芸術祭の紹介

『映像・生録コンテスト』は、神奈川県高等学校文化連盟が主催する、かながわ高校芸術祭の放送部門として行われています。芸術祭には全部で17の部門があり、11月から来年の1月にかけて、県下の各地でそれぞれ催しが行われます。

かながわ高校芸術祭の総合開会式が、11月7日（土）に関内ホールで行われました。また、閉会式は来年の1月23日（土）に県立横浜平沼高等学校で行われる予定です。映像・生録コンテストの最優秀作品（教育長賞）の表彰はこの閉会式で行われます。

開会式・閉会式の運営には放送関係から次の方々が携わっています。

1. 式の運営

県高文連 放送・情報専門部会	会長	西森 二郎	(県立大岡高校)
県高文連 放送・情報専門部会	委員	杉浦 敏昭	(県立平塚江南高校)
かながわ高芸祭実行委員		川口 修	(県立百合丘高校)

2. 開会式司会

山本 真希子 (県立座間高校)	[今年度NHK杯県大会アナウンス第1位]
但野 陽子 (県立川和高校)	[今年度NHK杯県大会アナウンス第2位]

3. 閉会式司会

龍野 ミサ (県立座間高校)	[今年度NHK杯県大会アナウンス第3位]
藤島 大介 (法政大学第二)	[今年度NHK杯県大会アナウンス第4位]

4. 開会式記録

音声記録	県立金井高等学校
映像記録	県立金井高等学校

5. 閉会式記録 (未定)

出場校および部門別参加本数一覧表

《横浜地区》

学校名	アナ	朗読	DJ	報道	文芸	放劇	映像	生録	合計
県立川和	1	1				1			3
県立柏陽	2	2		2		1			7
県立横浜立野		1	1						2
県立横浜日野	1								1
県立商工		1	1						2
県立希望ヶ丘			1	2					3
県立港南台			1			1			2
県立市ヶ尾		2	1						3
県立清水ヶ丘	1	1	1			1			4
県立金井	1	2		1		1	1	1	7
県立白山		2	1		1		1	1	6
県立富岡							1		1
県立新羽	1	1	1	1					4
県立岡津	2	2	1	1					6
県立磯子	1	1		1					3
県立瀬谷西	1	2	1	2					6
県立荏田		1	1			1			3
県立新栄		2	1	1			1	1	6
県立元石川	2	1	1			1	2	1	8
県立永谷						1			1
県立六ッ川	1	1	1	1		1			5
県立神奈川工業	1							1	2
横浜市立戸塚	1	1	1						3
横浜市立金沢		1			1		2		4
横浜市立南	2	2	1			1	2	3	11
成美学園女子		1							1
法政大学女子	2	2	1	1					6
日本大学				1					1
横浜国際女学院翠	2	1							3

《川崎地区》

学校名	アナ	朗読	DJ	報道	文芸	放劇	映像	生録	合計
県立川崎		2		1					3
県立多摩	1								1
県立生田	2	2	1			1	2		8
県立川崎北						1		1	2
県立柿生			1						1
県立生田東								1	1
県立川崎工業			1				1	3	5
県立向の岡工							1		1
川崎市立川崎	2	2					2	2	8
川崎市立高津	1		1						2
川崎市立商業	2	1	1			1		1	6
法政大学第二	2	2		1	1				6
カリタス女子	2	2							4

《横須賀・三浦地区》

学校名	アナ	朗読	DJ	報道	文芸	放劇	映像	生録	合計
県立岩戸	2	2						2	6
横須賀学院						1			1

《湘南地区》

学校名	アナ	朗読	DJ	報道	文芸	放劇	映像	生録	合計
県立平塚江南	2	2	1	2		1		1	9
県立鎌倉	1	2	1	2	1				7
県立湘南	2	2	1	2		1		2	10
県立茅ヶ崎						1			1
県立茅ヶ崎北陵	1	2				1			4
県立鶴嶺			1						1
県立藤沢西		2			1				3
県立藤沢北	1	2	1	1			1		6
県立寒川	2	2				1			5
県立茅ヶ崎西浜						1			1
日本大学藤沢	1	2					2		5

《西湘・北湘地区》

学校名	アナ	朗読	DJ	報道	文芸	放劇	映像	生録	合計
県立小田原城内	2	2	1						5
県立小田原城北工業		1				1			2
県立大和		2				1			3
県立厚木	2	2				1			5
県立津久井		1					2		3
県立座間	2	2	1				2	2	9
県立麻溝台	2	2	1					2	7
県立橋本						1			1
県立相武台	1	2				1	1		5
県立海老名	2	2	1		1				6
県立大和東	2	1	1				1		5
県立有馬	2	2		2		1		3	10
県立弥栄東		1	1						2
県立新磯		1							1
県立相模大野		2	1			1	2	3	9
相模女子大学高等	1	2						2	5
東海大附属相模	2	2	1	1		1	1		8
向上	2	1					2	1	6

	アナ	朗読	DJ	報道	文芸	放劇	映像	生録	総計
総計	66	88	35	26	6	28	30	34	313

諸注意

1. 会場内は土足厳禁です。
上履きを忘れた人は素足で。会場校のスリッパを勝手に使わないで下さい。
2. 閉会式会場の体育館は体育館履きです。忘れた人は素足で。
3. ゴミの処理、後始末は自分で確実に行って下さい。
会場に設置されたゴミ箱以外にはゴミを捨てないで下さい。
カンなどの不燃物は、可燃物と別々に捨てて下さい。
4. 昼食は、各会場、中庭などでとり、立入禁止区域には立ち入らないこと。
その他、会場校に迷惑をかけないように、考えて行動すること。
5. 審査中は静かにして下さい。
会場内はもちろん、廊下でも静かに。会場の出入りは審査の境目に行くこと。
6. アナウンス、朗読の出場者は早めに各会場で待機していること。
7. 大会当日の運営に関することは、顧問を通じて本部に申し出ること。

連絡

1. 閉会式終了後、スクリプト・テープを返却するので必ず受け取って帰ること。